

ぼくのくつ

小学四年 増子翔也

毎日ぼくの足にくつついてくれるくつ

毎日ぼくの体をささえてくれるくつ

歩くときも

走るときも

転ぶときも

いつもいっしょ

ぼくのがんばりを

一番ひくいところから

いつもおうえんしてくれる

やさしいくつ

それがぼくのくつ

『ぼくらのつとめ』 49

道を歩くときに  
くつに感謝したことが今まであったでしょうか。

私をささえてくれる方々がいなければ、  
私は一人では生きてはいけません。

くつのように、近すぎて見えにくいけれども、  
いつも私のことをささえてくれる。  
そんな方々に「ありがとう」のこころを忘れずに  
毎日歩んでいきたいですね。